

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	(1) 各領域において、知識や技能の個人差が大きい。全体的に語彙量を増やしていくことが課題である。 (2) 自己の考えを構成して文章に表したり、思いを相手に伝わるように表現したりすることが苦手である。 (3) 学習意欲が高い児童は多いが、理解したことや身に付いたことのよさを感じ取ったり、よりよく言葉を用いたりしようとする態度が弱い。	(1) 多くの文章を繰り返し読んだり、自分の表現に生かしたりして、言葉の感覚を養っていく。また、授業の中での話す、書く活動時にはよりふさわしい語句を選択して、使うように意識させる指導をする。 (2) 書く活動を通して、目的や相手意識を明確にして、文と文との繋がりや文章の種類とその特徴を捉えて書くことを意識させる。また、スピーチや対話活動を計画的に取り入れ、共通のテーマを設定して話し合うことにより、人との関わり中から伝え合う力を高め、自分の考えを広げられるような指導を行う。 (3) 漢字練習や日記の日常化など、学んだことが生かせる活動を取り入れた系統的な指導をする。そして、粘り強く取り組んだり、身に付いた表現を積極的に使ったりした児童の機会を逃がさず称賛していくことで、自ら言葉を使おうとする態度を養っていく。	
社会	(1) 我が国の政治の働きや歴史について、知識が未定着であったり、覚えることに意識が偏ったりしている傾向がある。 (2) 資料から分かることだけを伝えるに留まり、それらを関連付けて自分の考えを導き出すまでには至っていない。 (3) 全般的に学ぼうとする意識は高いが、学んだことを生かしてよりよく生きようとする意識にまでは至っていない。	(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせて問題解決的学習をすることで、確かな知識を定着させる。 (2) 資料から気付いたことや疑問点を伝え合い、それらを比較、関連、統合し、考えをまとめていく学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく。 (3) 単元の終わりには、学んだことをどのように実生活に生かしていくかを考える機会を設けることで、社会に目を向けられるようにする。	
	(1) 問題を解決しようとするときに、既習の知識・技能を意識していない児童が多い。	(1) 既習の知識・技能を用いれば未習事項も解決できると考える態度を養うために、□を用いた問題場面を設定する。また、既習の知識・技能を活用している児童の考えや発言を取り上げ	

算 数	(2) 立式する際、公式の適用に留まり、計算の意味の理解に至っていない児童が多い。分数を含む乗除法の計算方法や、図形単位における求積公式では、計算の意味の理解や公式を導くまでの過程を重視した指導の工夫が必要である。 (3) 「簡潔・明瞭・的確」に問題を解決することのよさを実感していない児童が多い。自己の問題の解決の過程を振り返ったり、他者の考えと自分の考えを比較したりすることにより、よりよいものを求めるという点で、主体的に学習に取り組む態度を育成する指導の工夫が必要である。	価値付ける。 (2) 問題の解決を式のみで指導するのではなく、図を活用し、式と図を関係付けることで、公式を含む式の意味を理解できるような指導を行う。 (3) 問題を解決した後、得られた解が何を表しているのかを児童に問い、振り返りの場面を設定する。 児童に身近な場面や、数学の内容として発展性を見いだせるような場면을問題に設定することにより、主体的に学習に取り組めるようにする。自分の考えを深めるとともに、他者の考えに触れる機会を多く取り入れ、多様な問題解決の過程を学び合い、良さを実感させる。	
理 科	(1) 観察・実験には意欲をもって取り組んでいるが、見通しをもたないまま取り組んでいる児童が多く見られる。 (2) 観察実験そのものを楽しむことに終始し、観察実験の方法や結果のまとめ方、考察が課題からずれることがある。 (3) 何のために学習するのかを考えて学習に取り組んでいる児童が少ない。	(1) 何のための観察実験なのか、課題を明確につかむことができるようにする。 (2) 結果と考察、結論を区別して考えさせる。特に、結果は表やグラフなどの描画や記号で表し、考察は結果から分かる共通性や規則性を見いだすこと、そして、結果は最終的に得られた判断として短い言葉で表現することなどを示していく。 (3) その学習内容が、生活のどの場面でのように生かされるかを、導入などで具体的に提示し、児童に必要感をもたせて学習を進める。	
音 楽	(1) 歌唱の学習では、6 学年としての声を重ねて歌う技能に課題がある。 (2) 曲想と音楽の構造との関わりについて考えることができるが、曲全体を味わって聴くことに課題がある。 (3) 楽譜や範奏などから、音楽の特徴を捉え、どのように表現したいか考え、主体的・協働的に学習に取り組む児童が多	(1) 歌唱の学習ができる期間は、声を重ねて歌う学習を短時間でも取り入れる。 (2) 曲全体の音楽の構成を意識できるように指導する。曲全体のよさや面白さについて、音楽的根拠をもってワークシートに書き、友達と共有することで、曲全体を味わえるようにする。 (3) どの児童も発言し、学習へ主体的に取り組むことができるよう、ペアなどの学び合い活動を継続する。その際、苦	

	い。しかし、一部に考えることができていない児童もいる。	手な児童同士が組むことがないよう配慮する。	
図 画 工 作	(1) 材料の特質を生かした作品づくりができる児童は多いが、用具の扱いが十分でないことが多い。 (2) 作品づくりには抵抗なく様々な発想をもって取り組める児童が多いが、他者の作品から自分の見方を深めるところに課題のある児童が多い。 (3) 課題自体には意欲的に取り組んでいるが、作品から感じたよさを相手に伝えるなど、作品を通して周囲との主体的な関わりをもつところまではあと一歩である。	(1) 用具を適切に使いこなせるようになるため、多様な課題で同じ道具を繰り返し使う体験をさせる。 (2) 視点を具体的に与えながら鑑賞の体験を多くさせることで、作品の見方や自分の作品への生かし方を少しずつ学ばせていく。 (3) まずは身近な存在である日本の水墨画や諸外国の作品の感想を伝え合う活動からはじめ、お互いの作品のよさを伝え合えるところまで鑑賞の活動を進めていく。	
家 庭	(1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについての日常生活に必要な知識、技能は、生活体験が異なるため個人差が大きい。また、手先の器用さなど技能面が低下している。 (2) 日常生活から問いを見だし、課題を設定することはできるが、自ら解決方法を考えたり、表現したりする力が身に付いていない。 (3) 家庭生活を大切にしているが、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する態度に課題がある。	(1) 基本的な技能を確実に身に付けるための指導時間を十分に確保し、友達との交流を通じた活動をする。ICTを活用し理解を深める。 (2) めあてをもち、計画的に学習を進められるようにワークシートを活用する。また、課題解決においては個人だけでなく、グループで学び合い、教え合いをする場を設定する。 (3) 学習したことを家庭で実践できるよう課題を設定し、日常生活への発展につなげていけるようにする。また、振り返って改善できるようにワークシートを工夫する。	
体 育	(1) 知識・技能の面では、学齢が上がるに従い、差が大きくなっている。運動を日常的に行っている児童と日常的に行っていない児童の二極化が顕著である。 (2) 自分の運動を客観的に見ることがないので、自信がなく、友達に技能のコツを伝えられる児童が少ない。 (3) 約束やルールを守り、助け合って運動する態度が身に付いている。運動対	(1) 感染拡大防止に努めながら、運動の楽しさを十分味わい進んで取り組めるよう学習過程の工夫や指導方法の工夫を行う。 (2) 学習カードを活用し、児童一人一人が自分の力に合った課題を設定しているか評価する。目的意識をもち、課題解決するための手だてを工夫できるようにする。また、児童が動きのポイントを理解し、互いに教え合える環境をつくる。 (3) 授業の準備運動などで、様々な運動遊びを経験させ、休み時間や放課後等に	

	する関心が個々のもつ体力や技能に影響を受ける様子が見られる。	も遊びを通して運動に親しむ心情を育てる。	
外国語活動	(1) 学校の外で学習している児童と、そうでない児童で差が見られる。アルファベットを書くことができない児童が一定数いる。 (2) 学習に積極的に取り組んでいる児童は学習した内容を使い、相手に外国語で伝えることができている。そうでない児童との個人差が激しい。文字や写真を見て正しくそれにあった外国語を発音できる児童は少ない。 (3) 大半の児童が、毎回の学習のめあてに向かって積極的に学習に取り組んでいる。外国語の学習に自信のない児童は、途中で取り組みを諦めてしまう様子も見受けられる。	(1) 毎回の学習を始める前に前回までの復習を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。宿題を効果的に活用し、書く学習にも慣れ親しむことができるよう工夫する。 (2) I C Tをフラッシュカードの要領で効果的に使い、外国語から日本語、日本語から外国語に変換した単語、新出単語を言えることができるように繰り返し復習していく。 (3) 各単元のめあてを提示し、児童が見通しをもって学習することができるよう工夫する。児童が楽しく活動しながら外国語を学習できるよう教材研究を行い、効果的な活動を取り入れる。中学校での英語の学習の素地を作る。	